



2021年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年5月14日

上場会社名 株式会社MTG 上場取引所 東
 コード番号 7806 URL https://www.mtg.gr.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松下 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 吉高 信 TEL 052-307-7890
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第2四半期の連結業績（2020年10月1日～2021年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第2四半期	20,177	30.3	3,034	—	3,374	—	2,994	—
2020年9月期第2四半期	15,479	△15.0	△2,057	—	△1,852	—	△822	—

(注) 包括利益 2021年9月期第2四半期 2,798百万円 (—%) 2020年9月期第2四半期 △764百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第2四半期	75.72	75.14
2020年9月期第2四半期	△20.71	—

(注) 2020年9月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第2四半期	43,135	36,269	83.8
2020年9月期	41,622	33,469	80.1

(参考) 自己資本 2021年9月期第2四半期 36,150百万円 2020年9月期 33,334百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2021年9月期の配当につきましては、現時点で未定です。

3. 2021年9月期の連結業績予想（2020年10月1日～2021年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	14.8	3,000	146.1	3,300	97.3	2,900	90.1	73.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名）－
除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 会計上の見積りの変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年9月期2Q	39,735,068株	2020年9月期	39,733,028株
② 期末自己株式数	2021年9月期2Q	190,182株	2020年9月期	190,116株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年9月期2Q	39,544,492株	2020年9月期2Q	39,732,944株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、米中貿易摩擦の長期化に伴う国際情勢の不安定さに加え、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響による世界的な経済活動の停滞等、国内外の経済動向は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、世界中の人々の人生をより美しく、より健康的に輝かせるためにHEALTH、BEAUTY、HYGIENE領域においてブランド及び商品の開発に取り組んでまいりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

①ダイレクトマーケティング事業

主な事業内容は、当社及び国内他社ECサイト、新聞を通じた一般消費者への直接販売及びインターネット通信販売・カタログ販売並びにテレビ通信販売事業者への卸売販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は8,143百万円(前年同期比49.1%増)、経常利益は3,122百万円(前年同期比164.4%増)となりました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大を受け、引き続き巣ごもり消費及び自宅ケア需要の増加に伴いセッション数、コンバージョン率ともに好調に推移いたしました。巣ごもり需要においてはStyleシリーズの販売が堅調に推移いたしました。

また、自宅美容においては、ReFa CARAT及び同ローラーシリーズの販売がインターネット通販、テレビ通販ともに好調に推移し、楽天市場やPayPayモールのイベントでも大きく売上を伸ばしました。ReFa BEAUTECH DRYER、ReFa BEAUTECH IRONの販売も口コミ効果により、堅調な推移を継続しております。

SIXPADにおいても自宅トレーニングニーズによりFoot Fitを中心に引き続き幅広い層から支持され、Foot Fitシリーズ累計出荷台数50万台達成キャンペーンや新聞広告等により大きく販売台数を伸ばすことができました。

②プロフェッショナル事業

主な事業内容は、美容室運営事業者、エステティックサロン運営事業者への卸売及び取次販売、飲食店、医療関連や施設への卸売販売、レンタル事業並びにショッピングセンター等での一般消費者への直接販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は4,566百万円(前年同期比26.6%増)、経常利益は1,493百万円(前年同期は129百万円の経常利益)となりました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による緊急事態宣言等の影響により、美容室、エステティックサロンへの来客数に影響はあったものの、自宅美容需要は継続して高く、2021年1月より販売を開始したReFa FINE BUBBLE Sの販売も好調に推移いたしました。コロナ禍が長期化する中、サロンにおいては店舗での物販に注力する傾向が高まり、当社商品の店舗販売を希望する新規契約の問い合わせも増加しております。

また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策ニーズの高まりを受け、飲食店、医療関連、商業施設等への衛生関連商品の業務用販売及びレンタル事業も引き続き好調に推移いたしました。

③リテールストア事業

主な事業内容は、量販店・専門店・百貨店・免税店・ショッピングセンターを中心とした運営事業者への卸売販売及び当社運営の小売店舗での対面販売を通じた一般消費者への直接販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は4,378百万円(前年同期比15.7%増)、経常利益は707百万円(前年同期は686百万円の経常損失)となりました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の長期化により、入国制限継続によるインバウンド需要の低迷や国内の外出自粛、2021年1月から2021年3月にかけての全国主要都市における緊急事態宣言等、個人の消費マインドの冷え込みが続く中、ReFaブランドの新商品であるReFa BEAUTECH CURL IRON、ReFa BEAUTECH STRAIGHT IRONのヘアケアシリーズや新商品ReFa HARI MAKEを軸に店頭売上は好調に推移いたしました。

量販店市場においては、継続的に家電量販店でのECサイト掲出強化を行ったほか、ReFa FINE BUBBLE Sの販売開始及び年始のイベント需要により売上は堅調に推移いたしました。また、店舗において運営及び接客の質を改善するとともに、衛生商品の拡販による販売品目の増加を図り、引き続き顧客満足度の向上に努めております。

④グローバル事業

主な事業内容は、海外グループ会社ECサイト及び海外のインターネット通信販売事業者の運営するECサイトを通じた一般消費者への直接販売、並びに海外のインターネット通信販売事業者、海外の販売代理事業者、海外の美容専門店及び海外の百貨店運営事業者への卸売販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は1,843百万円(前年同期比6.7%増)、経常損失は156百万円(前年同期は464百万円の経常損失)となりました。

中国においては、新商品ReFa BEAUTECH DRYER、ReFa BEAUTECH IRONのEC販売を引き続き強化するとともに、プロフェッショナル市場の販売も開始いたしました。また、Styleブランドの販売が好調に推移しております。2021年3月より新たにe-3Xの展開もスタートしたことから、今後も海外の最重点市場として成長を目指してまいります。

米国においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が継続する中、店舗販売にかわり、EC販売が引き続き堅調に推移しております。

台湾においては、新たなパートナーによる販売活動を開始し、ReFaブランドの新商品ReFa BEAUTECH DRYERの展開を開始しております。

韓国においては、新たにe-3Xの展開をスタートしてまいります。

また、新たな国への展開に向けた市場開発を継続して進めております。

⑤スマートリング事業

主な事業内容は、ショッピングや飲食時の決済を可能とする、非接触式のスマートリング(近距離無線通信を搭載した指輪)の製造販売を行うIoT事業となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は12百万円(前年同期比5.3%増)、経常損失は238百万円(前年同期は339百万円の経常損失)となりました。

⑥スポーツジム事業

主な事業内容は、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は298百万円(前年同期比119.7%増)、経常損失は590百万円(前年同期は156百万円の経常損失)となりました。

2020年10月20日にサービスを開始したSIXPAD HOME GYM事業においては、WEBサイト、家電量販店、専門店、百貨店のほかショッピングモールやスポーツジムでのイベント販売等、それぞれのチャンネルで販売強化に注力いたしました。2021年3月8日には体験型ショールームSIXPAD SHOWROOM GINZAをオープンいたしました。また、健康寿命の延伸に向けた取り組みとして、2021年2月より日本最高齢フィットネス・インストラクターの“タキミカさん”こと瀧島未香氏(90歳)とパートナーシップを締結し、ユーザー層を広める取り組みを開始いたしました。

⑦その他事業

主な事業内容は、EV事業及び中古自動車販売事業となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は934百万円(前年同期比265.4%増)、経常利益は116百万円(前年同期は10百万円の経常損失)となりました。

これらのセグメントで取り扱っている主なブランド及び商品は、次のとおりであります。

<HEALTH>

(SIXPADブランド)

SIXPAD Foot Fitシリーズにおいて、座ったまま裸足で足を乗せることで歩行を支える筋肉を効率的に鍛えられる簡便さが65歳以上の高齢者や運動初心者を中心に多くの支持を集め、2021年2月にSIXPAD Foot Fitシリーズの累計出荷台数50万台^{※1}を突破いたしました。

また、2021年3月には、全国のスポーツ専門店の販売員がその年のベストアイテムを厳選する「日本スポーツ用品大賞2020」において、SIXPAD Foot Fitが「最も売れた商品」トレーニング部門第1位を受賞いたしました。本受賞は、SIXPADシリーズとして同部門5年連続第1位獲得であり、同アワードにおける5年連続第1位獲得として史上初の快挙を成し遂げました。

2021年3月、シリーズ新商品として従来モデルより、薄型・軽量・コンパクトに改良したSIXPAD Foot Fit Liteを発売いたしました。同商品においては、1日20円、月々600円^{※2}という新しい支払いプラン^{※3}を導入し、また日本ホームヘルス機器協会が定める「健康増進機器」にも認定されたことから、より多様なライフスタイル、広い世代のユーザー獲得に努めてまいります。

2021年2月、健康寿命延伸に向けた取り組みとして、日本最高齢フィットネス・インストラクターの“タキミカさん”こと瀧島未香氏(90歳)とパートナーシップを締結いたしました。65歳から運動をはじめ、87歳でインストラクターデビューを果たした瀧島氏を介し、より広い年齢層へ運動習慣の重要性を発信し、トレーニング市場の深化と拡大を図ってまいります。

SIXPAD HOME GYMでは、2021年3月より、マンションモデルルームでの製品展示を行い、自宅トレーニングの手法として同商品を提案してまいります。また、近未来型EMSトレーニングジムSIXPAD STATION 八王子では、同サービスを無制限で利用できる新プランを発表し、会員獲得の強化に取り組んでまいります。

※1：2018年10月～2021年2月SIXPAD Foot Fitシリーズ実績

※2：所要資金：38,800円(税込)／初回支払月額：3,400円／2回目以降支払い月額(×59回)：600円／支払期間：5年／支払回数：60回／分割払手数料：0円(当社負担)

※3：一部の直販サイトでは一括支払いのみ

(Styleブランド)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により企業における在宅勤務の導入が進む中、自宅での快適なデスクワークニーズが高まり、正しい姿勢の習慣化をサポートする商品の販売は好調に推移いたしました。また2021年2月、ブランド累計出荷台数300万台を突破いたしました。

(NEWPEACEブランド)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、一部の都道府県による2度目の緊急事態宣言発令によって引き続き対面での接客販売は厳しい状況が継続する中、外出自粛による運動機会の減少や在宅勤務等慣れない環境でのデスクワークによって生じる身体のケアニーズの高まりを受け、2020年12月に発売したストレッチに特化したNEWPEACE Lightの認知拡大を進めております。

また、従来のAIモーションマットレスについても、良質な睡眠ニーズの高まりからTV露出が増え、睡眠サロンの予約数が増加し、店舗販売にも繋がっております。また、2021年2月、名古屋市立大学 桑和彦教授らと共同で行ったモーションマットレスの睡眠改善効果に関する研究成果が、睡眠医学の学術誌である「Sleep and Biological Rhythms^{※1}」に掲載され、動きで眠る臨床研究として商品の信頼性向上に繋がるエビデンスを取得することができました。

※1：日本睡眠学会公式の学術雑誌。基礎科学、医学、歯科、薬理学、心理学、工学、公衆衛生及び社会科学関連の幅広い視点から睡眠と覚醒のメカニズムを取り上げる。

<BEAUTY>

(ReFaブランド)

2021年3月より、進化したデリバリー技術「炭酸マイクロニードル」で目元をふっくらとした印象に導くReFa HARI MAKEをオンラインショップや百貨店、サロンにて発売いたしました。

サロン市場で先行販売するReFa BEAUTECH CURL IRON、ReFa LOCK OIL、ReFa ION CARE SHAMPOO/TREATMENTについて、2021年4月より、全ての市場にて販売を開始いたしました。

また2021年2月、ReFa FINE BUBBLE Sに搭載するファインバブル技術について、美容領域での可能性を追求・検証するサイトFINE BUBBLE LABOを開設し、ファインバブル業界のさらなる健全化及び活性化に寄与する取り組みを開始いたしました。

販売促進として2021年1月、オンラインショップにて新成人を美容で応援するキャンペーンを展開し、ローラーシリーズの売上に寄与いたしました。さらに2021年3月、オンラインショップや百貨店直営店等の対象店舗において、期間限定で新生活を応援するキャンペーンReFa NEW LIFEを開始し、新たな形の販売促進にも積極的に取り組んでまいりました。

2021年2月にはReFa SHOP GINZA SIXをリニューアルオープンし、新たな顧客体験の場として強化いたしました。

(ON&DOブランド)

2021年3月より、ベーシックスキンケアのフルラインをコンパクトな2週間分キットにまとめたON&DO YOUR CALL Iを、オンラインショップや阪急梅田、JR名古屋高島屋、Beauty Connection Ginzaの店舗において発売し、SNSでも投稿が相次ぐ等、好評なスタートとなりました。同月、JR名古屋高島屋においてポップアップストアを開催し、百貨店内での認知促進を進めるとともに、国際女性デーである3月8日には、時代をリードする女性起業家やキャピタリストをゲストに迎えたオンラインイベントWOMEN'S VITAL CONVENTIONを開催し、テーマごとの対談内容をYouTubeで生配信する等、ブランドの持つメッセージを積極的に発信いたしました。

(五島の椿ブランド)

2021年2月、「椿花酵母」に続き「椿花乳酸菌」の分離に成功し、免疫賦活作用の高い乳酸菌の分離により今後の研究開発の可能性を広げました。また、2021年3月には、長崎県五島市の中学生への郷土教育事業として、五島列島の宝である椿を産業にすることをテーマに授業を実施いたしました。今後も積極的なリリースによる認知拡大活動を続け、TVホームショッピング等の販売チャネルにおいて効果的な販促を行ってまいります。

<HYGIENE>

(@LIFEブランド)

長期化するコロナ禍の中、衛生関連商品へのニーズの高まりにより、ECサイト、家電量販店等の小売販売でe-3Xの販売が堅調に推移し、2021年3月には、発売から7ヶ月でe-3Xの累計出荷台数が10万台を突破いたしました。また、飲食店、小売店等への販売も強化しており、B to B販売が堅調に推移しております。加えて、コアテクノロジーEOCIS技術によって生成される除菌液において、より一層の研究を行なった結果、生成後12時間の除菌効果が持続することが認められたことから、今後さらなる拡販に繋げてまいります。

(ドゥキレイブランド)

衛生商品市場において手指消毒商品が飽和状態にあり手指消毒ジェルの販売に一服感が出る中、2020年10月に発売した新商品消毒ハンドクリームの納入店舗数が堅調に推移いたしました。コロナ禍の新たな衛生習慣として手指の消毒が定着する中、消毒と保湿を1ステップで可能にする新たなニーズを捉えた商品として今後も拡販に努めてまいります。また、業務用非接触型ディスペンサー用の詰め替え消毒ジェルの販売についても堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は20,177百万円(前年同期比30.3%増)となりました。また、営業利益は3,034百万円(前年同期は営業損失2,057百万円)、経常利益は3,374百万円(前年同期は経常損失1,852百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,994百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失822百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては43,135百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,512百万円増加しました。これは主に現金及び預金の増加309百万円、受取手形及び売掛金の減少918百万円、商品及び製品の増加2,475百万円及び前払費用の減少471百万円によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては6,866百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,287百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金の減少469百万円並びに未払金の減少994百万円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては36,269百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,800百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益2,994百万円による利益剰余金の増加及び為替換算調整勘定の減少190百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)につきましては、13,780百万円となり、前連結会計年度末に比べ309百万円増加しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は、804百万円(前年同期比63.2%増)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益3,375百万円及びたな卸資産の増加額2,433百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は、470百万円(前年同期比51.8%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出244百万円、無形固定資産の取得による支出78百万円及び投資有価証券の取得による支出168百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は、78百万円(前年同期は214百万円の使用)となりました。これは主に長期借入れによる収入80百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、本日(2021年5月14日)公表の「通期業績予想修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,470	13,780
受取手形及び売掛金	3,908	2,989
商品及び製品	7,000	9,476
原材料及び貯蔵品	1,896	1,923
前払費用	1,189	717
その他	1,829	1,611
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	29,292	30,497
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	277	489
土地	8,893	8,893
その他(純額)	670	492
有形固定資産合計	9,841	9,875
無形固定資産		
投資その他の資産	225	272
投資有価証券	1,656	1,838
繰延税金資産	21	42
その他	609	633
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	2,263	2,489
固定資産合計	12,329	12,637
資産合計	41,622	43,135

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,428	959
未払金	2,409	1,415
未払法人税等	548	482
賞与引当金	427	403
返品調整引当金	435	512
その他の引当金	213	168
その他	2,101	2,212
流動負債合計	7,564	6,152
固定負債		
その他	589	713
固定負債合計	589	713
負債合計	8,153	6,866
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,610	16,611
資本剰余金	23,193	15,376
利益剰余金	△6,551	4,261
自己株式	△0	△0
株主資本合計	33,252	36,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	57
為替換算調整勘定	34	△155
その他の包括利益累計額合計	81	△97
新株予約権	4	3
非支配株主持分	129	114
純資産合計	33,469	36,269
負債純資産合計	41,622	43,135

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)
売上高	15,479	20,177
売上原価	5,583	4,926
売上総利益	9,895	15,250
返品調整引当金戻入額	561	435
返品調整引当金繰入額	489	512
差引売上総利益	9,967	15,174
販売費及び一般管理費	12,025	12,139
営業利益又は営業損失(△)	△2,057	3,034
営業外収益		
受取利息及び配当金	7	7
受取地代家賃	16	—
為替差益	70	293
その他	130	74
営業外収益合計	224	376
営業外費用		
支払利息	0	0
コミットメントフィー	—	23
固定資産除却損	12	4
その他	7	9
営業外費用合計	19	37
経常利益又は経常損失(△)	△1,852	3,374
特別利益		
関係会社株式売却益	1,174	—
新株予約権戻入益	—	1
特別利益合計	1,174	1
特別損失		
事業構造改善費用	64	—
特別損失合計	64	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△741	3,375
法人税等	179	396
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△921	2,978
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△98	△15
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△822	2,994

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△921	2,978
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44	10
為替換算調整勘定	201	△190
その他の包括利益合計	157	△179
四半期包括利益	△764	2,798
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△665	2,814
非支配株主に係る四半期包括利益	△98	△15

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△741	3,375
減価償却費	158	266
賞与引当金の増減額(△は減少)	20	△23
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△72	76
為替差損益(△は益)	△50	△26
支払利息	0	0
関係会社株式売却損益(△は益)	△1,174	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,172	1,084
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,704	△2,433
仕入債務の増減額(△は減少)	△555	△615
前払費用の増減額(△は増加)	△1,071	428
未払金の増減額(△は減少)	△1,545	△1,003
その他	1,459	△291
小計	△696	836
利息及び配当金の受取額	6	7
利息の支払額	0	△0
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	1,183	△39
営業活動によるキャッシュ・フロー	492	804
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,272	△244
無形固定資産の取得による支出	△192	△78
投資有価証券の取得による支出	△523	△168
関係会社株式の売却による収入	1,188	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	70	—
その他	△248	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△977	△470
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△125	—
長期借入れによる収入	—	80
長期借入金の返済による支出	△90	—
株式の発行による収入	0	1
自己株式の取得による支出	△0	△0
非支配株主からの払込みによる収入	2	0
配当金の支払額	△0	△0
その他	△1	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△214	78
現金及び現金同等物に係る換算差額	△79	△102
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△778	309
現金及び現金同等物の期首残高	13,886	13,470
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,108	13,780

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年12月25日開催の第25回定時株主総会において、資本準備金及び利益準備金の額の減少及び剰余金の処分について決議し、2021年2月9日付でその効力が発生しております。

(1) 資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金の処分の目的

繰越利益剰余金の欠損を補填し財務体質の健全化を図ること、また、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保することを目的としております。

(2) 資本準備金及び利益準備金の額の減少の要領

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金及び利益準備金の額を減少し、それぞれその他資本剰余金及び繰越利益剰余金に振り替えました。

①減少する準備金の項目及び額

資本準備金：16,510,471,964円のうち、7,818,932,114円

利益準備金：8,069,185円の全額

②増加する剰余金の項目及び額

その他資本剰余金：7,818,932,114円

繰越利益剰余金：8,069,185円

(3) 剰余金の処分の要領

会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金の一部並びに別途積立金及び特別償却準備金の全額を繰越利益剰余金に振り替えて繰越利益剰余金の欠損を補填しました。

①減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金：7,818,932,114円

別途積立金：920,000,000円

特別償却準備金：17,380,626円

②増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金：8,756,312,740円

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(会計上の見積りの変更)

当社は、たな卸資産の評価基準について、将来の販売見込みに基づく一定の滞留期間を超える場合には原則として一定の率に基づき規則的に帳簿価額を切り下げた価額をもって貸借対照表価額としておりましたが、直近の当社のたな卸資産の保有状況、販売実績状況等に鑑み、たな卸資産に係る収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させるため、第1四半期連結会計期間より、滞留期間の見積り方法について変更することとしました。

この結果、変更前の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上原価が915百万円減少し、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ915百万円増加しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの記載順序を変更しております。これに伴い、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントの記載順序を同様に變更しております。

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年10月1日至2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント									調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	ダイレク トマーケ ティング 事業	プロフ ェッシ ヨナル 事業	リテー ルスト ア事業	グローバ ル事業	ウオータ ーサーバ ー事業	スマー トリン グ事 業	スポー ツジ ム事 業	その 他事 業 (注)1	計		
売上高											
外部顧客への 売上高	5,461	3,606	3,783	1,728	495	12	135	255	15,479	—	15,479
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	5,461	3,606	3,783	1,728	495	12	135	255	15,479	—	15,479
セグメント利益 又は損失(△)	1,180	129	△686	△464	△61	△339	△156	△10	△408	△1,443	△1,852

(注) 1. 「その他事業」は、EV事業及び中古自動車販売事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,443百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,443百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	ダイレク トマーケ ティング 事業	プロフ ェッシ ョナル 事業	リテー ルスト ア事業	グローバ ル事業	スマー トリン グ事 業	スポー ツジ ム事 業	その他事 業 (注) 1	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	8,143	4,566	4,378	1,843	12	298	934	20,177	—	20,177
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	8,143	4,566	4,378	1,843	12	298	934	20,177	—	20,177
セグメント利益 又は損失(△)	3,122	1,493	707	△156	△238	△590	116	4,455	△1,081	3,374

(注) 1. 「その他事業」は、EV事業及び中古自動車販売事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,081百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,081百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、前連結会計年度において、当社の連結子会社であった株式会社Kirala及び株式会社サカモトクリエイトの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことに伴い、「ウォーターサーバー事業」から撤退したことから、第1四半期連結会計期間より「ウォーターサーバー事業」セグメントを廃止しております。

また、当社は、第1四半期連結会計期間より、「その他事業」に含まれていた「スポーツジム事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。